平成２９年度　事業報告書

公益財団法人　知床財団

目　　次

公　益　事　業

公１：普及対策系事業

Ⅰ．　野生生物との共存のための啓発業務 3
１．　地域向け環境教育 3
２．　学習教材開発・運用業務 4
Ⅱ．　国立公園利用者サービス業務 4
１．　ビジター向けインフォメーション・環境教育業務 4
２．　知床自然センター内外刷新業務 5
３．　ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務 6
Ⅲ．　情報発信・賛助会員拡大業務 6
１．　地域向け情報発信 6
２．　一般向け情報発信 7
３．　ホームページ等インターネットを活用した広報の強化 7
Ⅳ．　賛助会員運営業務 7
１．　会報誌の発行 7
２．　賛助会員の管理 7
３．　寄付、賛助会員拡大推進 8
Ⅴ．　人材育成業務 8
１．　ボランティア活動推進業務 8
２．　人材育成・就業体験受入業務 8

公２：施設管理系事業

Ⅰ．　知床自然センター等管理運営業務 9
Ⅱ．　羅臼ビジターセンター管理運営業務 9
Ⅲ．　ルサフィールドハウス管理運営業務 9

公３：調査研究系事業

Ⅰ．　独自調査研究事業　（独自事業） 10
１．　エゾシカ個体群の動態に関する調査業務 10
２．　幌別－岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務 10
３．　ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務 10
４．　知床の暮らしと生き物を守る電気柵・ゴミステーション等普及業務 10
５．　希少鳥類などの長期モニタリング業務 11
６．　海生哺乳類モニタリング業務 11
７．　水域における生物群集モニタリング業務 11
８．　学術的な交流と成果公表に関する業務 12
９．　知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集業務 13

Ⅱ．　斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業 13
１．　ヒグマ対策業務 13
２．　自然環境管理対策業務 14
Ⅲ．　野生生物管理事業 15
１．　知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務 15
２．　エゾシカ生息密度操作関係業務 15
Ⅳ．　遺産地域調査事業 16
１．　エゾシカの採食による植生への影響調査業務 16
２．　エゾシカ航空カウント調査業務 16
３．　サケ科魚類の遡上状況調査業務 16
Ⅴ．　科学委員会等運営事業 16
Ⅵ．　自動車規制管理運営事業 17
Ⅶ．　知床エコツーリズム総合推進事業（独自事業） 17
Ⅷ．　知床五湖関連業務 17

公４：森林再生系事業

Ⅰ．　しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務　（受託事業） ... 19
１．　森林再生推進業務 19
Ⅱ．　しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業（独自事業） ... 20
１．　普及推進業務 20

収　益　事　業

収１：収益事業

Ⅰ．　販売・有償貸出業務 22
Ⅱ．　研修実習受入業務 23

他１：その他の事業

Ⅰ．　ＪＢＮ業務 26

法　人　会　計

法１：財団法人管理運営事業

Ⅰ．　財団法人管理運営業務 26

公　　益　　事　　業

公１：普及対策系事業　（独自事業）

Ⅰ．野生生物との共存のための啓発業務

１．　地域向け環境教育

野生生物との共存への理解を推進する教育

知床ウトロ学校全校児童・生徒を対象としたクマ授業を実施しました。また、知床財団が行うヒグマ対策活動に対し、住民の理解と協力を得ることを目的に、知床財団職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を開催しました。今年度のクマ端会議は、近年斜里町の市街地付近でヒグマの目撃情報が複数件あることから、斜里町市街地内でも開催しました。ウトロでの開催では、ヒグマ対策スプレーの使用方法や試射など、実演を交えて紹介しました。

羅臼町では、幼小中高一貫教育のカリキュラムのもと、幼稚園と小学 3 年生、小学 5 年生、中学 1 年生、中学 3 年生、高校 2 年生の全生徒を対象に、計 11 回のヒグマ授業をそれぞれの学校で実施しました。今年度は、初の試みとして標津中学校でもヒグマ対策スタッフが現地に赴き、ヒグマ学習を実施しました。

地域の自然への関心を高める教育

斜里町、羅臼町それぞれにおいて今年も総合的な学習の時間などの枠で、知床の自然や世界自然遺産、100 平方メートル運動などについての学習対応を行いました。

しれとこ 100 平方メートル運動の学習対応として、7 月に斜里町朝日小学校 6 年生、斜里小学校 4 年生と 6 年生を対象に、9 月には知床ウトロ学校 3 年生を対象に、運動地現地などで授業を行いました。

総合的な学習の一環として、8 月に知床ウトロ学校 7 年生を対象に世界遺産に関する学習を野外で実施しました。10 月には知床ウトロ学校 1、2 年生を対象に、身近な自然や昆虫について学習する授業を同じく野外で実施しました。3 月には知床ウトロ学校 8 年生を対象に、知床の自然保全と観光についてディスカッション形式の授業を行いました。

斜里中学校 2 年生のキャリア学習では、学校に直接出向き、知床財団がどのような職業か学んでもらう授業に協力しました。

羅臼町においては、羅臼中学校 2 年生、羅臼高等学校 2 年生の職業体験学習を羅臼ビジターセンターにて受け入れました。

羅臼町公民館、環境省と共に羅臼町内の小学生を対象にして毎年実施している知床キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）は、今年度も 5 月から 2 月までの間に計 10 回の講座を企画しました。今年度で 4 年目となるウトロの愛護少年団との交流事業も引き続き企画、実施しました。プログラムは前年度と同様でしたが、6 月に予定していた知床

岬でのゴミ拾い活動は悪天候のため実施できませんでした。ウトロのチャシコツ崎における浅瀬の生き物学習は、予定通り 7 月に無事実施することができました。

羅臼町教育委員会、羅臼町公民館、子ども会育成協議会が主催する「羅臼町ふるさと少年探険隊」に、今年も職員 1 名が運営スタッフとして協力しました。

２． 学習教材開発・運用業務

今年度、ヒグマ学習教材トランクキット 1 号機の貸出実績は 9 件、2 号機の貸出実績は 2 件となりました。貸出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や、広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しています。

また、2016 年度に完成した海獣版のトランクキットは、羅臼ビジターセンターでのミニレクチャーなどの場で職員が活用しました。

Ⅱ． 国立公園利用者サービス業務

１． ビジター向けインフォメーション・環境教育業務

知床自然センター

2016 年度の全面改修工事に続き、2017 年度も映像ホールを中心とした、第 2 期の改修工事が実施されました。前年度に引き続き知床自然センターでのインフォメーションおよび環境教育事業は、次項のリニューアルアクションプランとして一体的に実施しました。

羅臼ビジターセンター

来館者に対し、自由に展示物を見ていただくだけではわからないストーリー性や奥行きのある自然解説を行うため、ミニレクチャーを実施しました。今年度は 8 月から 9 月の繁忙期に計 13 回実施し、288 人の方にご参加いただきました。レクチャーの内容は、知床の海の生き物に関することやヒグマの話、また羅臼昆布やマルハナバチについてなど、バラエティー豊かな内容で実施しました。

また、冬期間の利用者によりビジターセンター周辺を楽しんでいただくために、ビジターセンターの裏手から間歇泉やキャンプ場をめぐるスノーシューコースを新しく設置し、積雪時期の新たな公園利用の提案を行いました。

ルサフィールドハウス

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさなどのついてお話しするとともに、フィールドハウスの 2 階から観察できる鯨類のことなどを解説しました。

知床五湖フィールドハウス

知床五湖利用調整地区の指定認定機関として 4 月から 11 月まで職員が常駐しました。遊歩道のコンディションや自然情報等の情報を収集し、SNS 等も用いたリアルタイム発信を行いました。特に、外国人対応として、展示物や案内物の英語表記やピクトグラム化を強化しました。また、ヒグマ活動期には、知床ガイド協議会と協力しガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者への案内サービスを継続しています。

２． 知床自然センター内外刷新業務

前年度から継続する、リニューアルアクションプランを係横断で編成した作業チームにおいて実施しました。リニューアル初年度の成果と課題を踏まえ、特にサービス面において自然センターの機能や位置づけを新たにするための各種施策を継続しました。施設の改修と併せたサービス面の刷新に向けた取り組みを斜里町と連携を密にしながら実施しました。

①インフォメーションカウンターの運用

フィールド情報の受発信と外国人利用者への対応を核としたインフォメーション機能の充実を図りました。リアルタイム情報の受発信の強化のため、twitter 等の SNS の運用を継続したほか、知床国立公園内の施設、観光船、遊歩道等の開閉・運用等の状況が一覧できるポータルサイト「知床情報玉手箱」を運用し、館内サイネージに取り入れました。また、9 月に供用開始となった新コース「森づくりの道」の案内やヒグマ情報の提供にも取り組みました。また、夏期繁忙期にはシャトルバスの発券サービスを行い、チケットの発券と共に情報提供を行う仕組み作りを構築しました。

②レクチャールームの活用と普及啓発事業の実施

レクチャールームにおいて、定時レクチャーに取り組みました。ヒグマの活動が活発となる上半期においては、「日刊・知床ヒグマ情報」を毎日実施し、最新のヒグマ情報や安全対策を伝える取り組みを行い、総計 765 名の参加がありました。また、知床の自然の魅力や財団の取り組みを分かりやすく伝える「知床財団 スタッフトーク！」は毎日 2 回設定し、2,952 名の参加がありました。実施時には、併せて財団活動のＰＲも行い、371,284 円の募金を集めています。

財団の活動を伝え、支援を広げる活動として、活動紹介コーナーを拡充し、支援企業の掲示等を追加しました。募金箱の設置をし、今年度は総計 739,986 円の募金を集めることができました。

③映像ホールの運用刷新

今年度は第 2 期の改修工事として、映像ホールの館内が全面改修となり、2 月 1 日より新しくなったシートでの運用が開始されました。このため、11 月 1 日より 1 月末までの期間は休館となり、上映も休止となりました。

リニューアル後の 2 月 1 日からは特別作品として、写真家石川直樹氏によるオリジナル作品の上映を 2 月 1 日より開始しました。

また、四季知床の後継作品の制作が決定したことから、財団の知見を魅力的な作品作りに活かすため、業者選定の段階からプロジェクトに主体的に関わっています。

④常設展示・企画展示室の立ち上げと運用

館内展示について、従来の展示物の整理を行い、テーマや導線に沿った再配置や外国語表記に取り組みました。柱展示は従前通りの取り組みを継続しました。新設された企画展示室においては、年 2 回の企画展を実施したほか、ミニギャラリーでの写真展も継続し、5 回の写真展を行いました。いずれも、外部機関や関係者との連携により企画制作しており、幅広いテーマを取り扱いました。

⑤屋外スペースの整備と導線の確立

9 月より 100 ㎡運動地の公開コース「しれとこ森づくりの道」が新規オープンしたことから、これの導線を明瞭にするための標識の設置や園地の整備を実施しました。

⑥広報・記念イベントの実施

主に地域の住民を対象としたイベントを 2 回実施しました。10 月には、家族向けのイベントとしてアニメーション映画の上映を行い、300 名を超える参加がありました。3 月には、映像ホールのリニューアルを紹介する映画会として、今津秀邦監督による「生きとし生けるもの」の上映を行い、160 名以上の参加がありました。

知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」の発行を継続しました。同たよりは、ウトロの宿泊施設および観光関係施設（全 27 施設 ）に配布しており、宿泊者への情報提供に役立てていただいています。

３． ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

前年度に引き続き、ルサフィールドハウスの知名度向上と幅広い層の方々に利用しいただくことを目的として、「ルサ・カフェ」を実施しました。今年度は 7 月 21 日～7 月 23 日の 3 日間と、9 月 13 日～9 月 17 日の 5 日間に、のべ 367 名の方にカフェを利用していただきました。9 月のカフェでは延長開館を実施し、のんびりとくつろげる館内はとてもいい雰囲気でした。

また、ルサフィールドハウス裏に植生保護のための防風防雪柵を設置する作業を行い、この活動を周知するための町民イベントも実施しました。

Ⅲ． 情報発信・賛助会員拡大業務

１． 地域向け情報発信

知床財団の活動に対する理解と協力を得るために、地元やそのほかの地域に向けて

知床財団の活動紹介を行っています。地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009 年度より知床の旬の自然情報や当財団の活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。今年度は 2 ヶ月に 1 回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町 5,050 部、羅臼町 2,000 部）。

２． 一般向け情報発信

会報誌 SEEDS を活用して、観光客を対象とした知床財団の PR や賛助会員獲得に向けた広報を展開しています。2011 年の夏より、斜里・羅臼両町の宿泊施設にご協力いただき、SEEDS を町内の旅館やホテルなどの宿泊施設に置かせていただいているほか、賛助会員募集パンフレットを地元の旅館のロビーなどに置かせていただいています。

協定先の旭川市旭山動物園では引き続き「しれとこシカ絵巻」をエゾシカエリアに設置いただいています。また、図書館には賛助会員募集のパンフレットや SEEDS のバックナンバーファイルが設置されており、知床財団活動の PR、賛助会員獲得にむけた広報にご協力いただいています。

３． ホームページ等インターネットを活用した広報の強化

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるため、ホームページでの情報発信を継続して行っています。SNS（Social Network Service）のひとつ Facebook を引き続き広報媒体として活用しました。知床財団の職場の様子や活動のひとコマが垣間見られるブログを都度掲載しているほか、イベントの周知や野生動物に関する普及啓発的な内容、さらにオリジナル商品の紹介についても随時アップロードしました。Facebook に容易にアクセスできるようホームページのトップ画面に Facebook のバナーも配置しました。

今年度はスマートフォンでも知床財団のホームページが快適に閲覧できるように、デザインのレスポンシブ化を図りました。

Ⅳ． 賛助会員運営業務

１． 会報誌の発行

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報紙「SEEDS」を 4 回発行、会員の皆様や関係機関の方に発送しました。

２． 賛助会員の管理

今年度の新規の入会状況は、個人年会員 126 件（前年度 75 件）、個人終身会員 9 件（前年度 12 件）、法人年会員は 5 件（前年度 3 団体）、法人特別年会員は 1 件（前年度 1 団体）でした。個人年会員は、前年度を大幅に上回る結果となりました。

３．　寄付、賛助会員拡大推進

知床財団の活動をひろく一般の方へ PR し寄附拡大へとつなげるため、札幌近郊で開催されている北海道キャンピングフェアに参加しました。本イベントの参加は 2016 年度から実施し、今年度 2 回目の参加でした。また、斜里町の産業祭り、羅臼町の知床開き、漁火祭りに出展し、地元住民に対し知床財団が行なっている活動内容の普及に努めました。

会員サービスの一環として導入した賛助会費の自動引き落としシステムは稼働して 1 年が経過しました。利用者は徐々に増えてきており、個人年会員の更新率は全体で前年比 104%（前年度 397 件、今年度 412 件）となりました。クレジットカードカード自動決済は 68 件あり前年度から増加しました（前年度件数 35 件、前年比 194%）。また、2017 年 8 月 1 日よりローソン・ミニストップに設置されている店頭端末 Loppi（ロッピー）からも会員が申し込みいただけるサービスを追加しました。

今年度、個人寄附としてお寄せ頂いた金額は 1,464,635 円（前年度 695,368 円）となりました。法人寄附として 14 社から総額 8,277,865 円（前年度 9,542,244 円）の寄附をいただきました。

知床自然センター・羅臼ビジターセンターの館内展示や知床財団ホームページでは、賛助会員募集や寄附の呼びかけ、寄附のお礼の掲載などに力を入れました。

賛助会員を募集するためのパンフレットは今年度改訂作業を実施し、2018 年度からデザインが一新されたパンフレットを配布する予定です。

Ⅴ．　人材育成業務

１．　ボランティア活動推進業務

昨年年度末でのボランティア登録者数は 200 名、その内の 43 名の皆さんが「100 平方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼でのルサフィールハウス裏手に新たに柵を設置する作業などに参加してくださいました。年齢層は 10 代から 70 代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は 40 日間、のべ参加人数は 124.5 人日となりました。

２．　人材育成・就業体験受入業務

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）の受け入れを行いました。主に野生動物や環境保全を専攻する全国の学生から応募があり、夏冬合わせて 6 教育機関より 6 名の受け入れを実施しました。

公２：施設管理系事業　　（受託事業）

Ⅰ．　知床自然センター等管理運営業務

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像ホールの運営と料金徴収等の業務を行いました。今年度の知床自然センター入館者数は 194,746 人で、前年度比 105%となりました。リニューアルの効果もあり、過去６年間で最高の入館数となっています。また、映像ホール入館者数は 13,411 人（前年度比 80%）となり、改修工事による閉館などの影響もあり減少しています。

そのほか、知床自然教育研修所の維持管理を行いました。今年度は、外部研究者やボランティア活動参加者を中心に 908 人泊の利用があり、382,700 円を施設利用料金として徴収しました。

Ⅱ．　羅臼ビジターセンター管理運営業務

羅臼ビジターセンターの来館者数は 42,991 名で前年度比は 104%、過去最多の来館者となりました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地等）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を実施し、館内での情報提供に活用しました。また、カウンターでの情報提供のほかに自然観察会を 5 回、特別展示を 5 回、例年どおり開催しました。このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

羅臼研究支援センターでは、施設の維持管理のほか受付や協力金徴収を行い、外部研究者を中心にのべ 17 名、169 泊の利用がありました。

Ⅲ．　ルサフィールドハウス管理運営業務

ルサフィールドハウスは今年度も開館期間は4月から10月の7ヶ月間となりました。今年度の来館者数は 7,931 人で前年度比は 128%、羅臼ビジターセンター同様にルサフィールドハウスも過去最高の来館者数となりました。今年度は悪天候などによる臨時閉館も少なく、ルサカフェなど各種イベントを通して、多くの方々にご来館いただいた 1 年でした。また、これまでどおり知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、引き続きルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーし、こちらもこれまでで一番多くの回数を実施しています。

公３：調査研究系事業

Ⅰ．　独自調査研究事業　（独自事業）

１．　エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

知床半島内の重要なエゾシカ越冬地の一つとなっている斜里町真鯉地区において、国道上からのエゾシカ日中カウントを冬期間に計 6 回実施しました。調査日は原則として可猟期間外（休猟期間内）に設定しました。シカの確認頭数は 3 月中旬が最多で 40 頭でした。最大確認頭数は 2014 年度が 238 頭、2015 年度が 227 頭、前年度が 121 頭であり、年々減少傾向となっています。ルシャ地区の GPS 首輪付きの標識個体の行動追跡は、2017 年度は環境省からの業務として継続できたため、独自事業としては実施しませんでした。

２．　幌別－岩尾別地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

今年度はドラム缶式ワナによるヒグマの生体捕獲は実施できませんでした。また、外見による個体識別を確定させるため、ヒグマ 1 頭について麻酔銃による組織片採取（ダートバイオプシー）を行ない、遺伝子分析による結果を得ました（北大獣医学部との共同）。麻酔銃持参でヒグマに接近を試みる場面は他にも多々ありましたが、警戒されて射程距離まで入れず、大半が発射に至りませんでした。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマの頭骨 32 個体分（斜里 23・羅臼 3・標津 2・清里 4）の標本を作製しました。

３．　ルシャ地区におけるヒグマの生態等に関する調査業務

斜里町ルシャ地区を利用するヒグマを、目視と遺伝子分析（分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など）によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況などを引き続き調査しました。2017 年に斜里町と羅臼町で捕獲されたヒグマ 37 頭には、ルシャ生まれの個体が 2 頭、ルシャで確認履歴のある個体が 3 頭含まれていました（北大獣医学部・知床博物館との共同事業）。うち 1 頭（オス 3 歳）は、ウトロ道の駅の駐車場に糞を落とした後、一般住宅の庭を横切った個体と同一でした。

４．　知床の暮らしと生き物を守る電気柵・ゴミステーション等普及業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず、対策に苦慮していました。そこでヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。今年度の文吉湾では、電気柵を 5 月に再設置しました。ヒグマは電気柵を忌避した一方で、柵の無い海中に回り込んで泳いで文吉湾内に侵入する個体が再び観察されました。またウトロ地区において、ヒグマによる魚干し場被害の

拡大防止等を目的として、簡易電気柵の無償貸し出し・設置補助を実施しました。

羅臼町では、2011 年から 5 年間にわたりダイキン工業株式会社様からの寄付を受けた羅臼町が順次電気柵の設置を進めました。知床財団はこれら電気柵の設置を羅臼町からの業務委託を受け実施してきました。前年度に引き続き、ダイキン工業株式会社様からの当財団への寄付金事業として電気柵の設置、維持管理および撤収を実施しました。また併せてヒグマが民家近くの藪に潜まないように、フキやイタドリの刈り払いも町内各所で行いました。

５．　希少鳥類などの長期モニタリング業務

知床のオジロワシの繁殖状況に関わる調査員によって構成されている「オジロワシ長期モニタリンググループ」の事務局を引き続き担い、情報の集約と会議運営をしました。知床財団が調査担当となっている営巣木については、当年の営巣の有無や雛数等について情報収集しました。また、羅臼町内で糞や騒音等が問題となっているオオセグロカモメについて、基礎的情報を収集することを目的とした営巣数調査を 6～7 月に 5 回行ったほか、観光船による餌やりという課題を抱える海ワシ類については、餌の量と海ワシ類の分布の関係や、観光客の満足度等について調べ、関係団体等に結果報告をしました。

６．　海生哺乳類モニタリング業務

冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸において、陸上の定点からのカウント調査を継続しました。今年度は手法を若干変更し、ドローン（無人航空機）による遊泳群の上空からの撮影および群れに含まれている標識個体の確認に調査努力を集中し、計 13 日間フライトを実施しました。今年度の冬期に確認した標識個体は計 11 頭で、うち 10 頭が中部千島で出生した個体でした。1 頭のみ、サハリン系（チュレニー島生まれ）の個体が確認されました。また上記 11 頭のうち 7 頭（63.6 %）は、前年度以前にも知床で確認された個体でした。また、北海道区水産研究所や稚内水産試験場が解体・サンプリングを実施した後のトド駆除個体の残滓の運搬・処分をサポートしました。

７．　水域における生物群集モニタリング業務

羅臼町の深層水汲み上げ施設で、前年度に引き続き各種生物を収集しました。また、2012 年に国後島と択捉島で採集した魚類について北海道大学及び国立科学博物館と種の同定を進めました。

８．　学術的な交流と成果公表に関する業務

学会口頭発表

○大石和恵，阿部瑛理香（海洋研究開発機構），石名坂豪（知床財団），藤井啓（ひれあし研究会），丸山正（海洋研究開発機構）．北海道の襟裳岬と知床半島に棲息・回遊する鰭脚類におけるブルセラ菌感染の血清疫学研究．　第 23 回日本野生動物医学会大会　日本獣医生命科学大学（武蔵野市）　2017 年 9 月

○梶光一（東京農工大），山中正実（知床博物館），増田泰，石名坂豪（知床財団），邑上亮真（東京農工大）．知床岬のエゾシカ個体群の爆発的増加が植生とシカ個体群に与えた長期的影響．　日本哺乳類学会 2017 年度大会　富山大学（富山市）　2017 年 9 月

○下鶴倫人（北大），山中正実（知床博物館），中西将尚，白根ゆり（北大），石名坂豪，葛西真輔，能勢峰，増田泰（知床財団），坪田敏男（北大）．　知床半島ルシャ地区におけるヒグマの繁殖特性 －長期追跡調査に基づく繁殖指標の算出－　日本哺乳類学会 2017 年度大会　富山大学（富山市）2017 年 9 月

学会ポスター発表

○石名坂豪，土屋誠一郎，佐藤瑞奈，吉田剛司（酪農学園大学），増田泰（知床財団）．ドローンを活用したトド遊泳群のカウント、標識個体の識別および標識再捕法による根室海峡来遊群の個体数推定．　日本哺乳類学会 2017 年度大会　富山大学（富山市）2017 年 9 月

○山中正実（知床博物館），下鶴倫人（北大），白根ゆり（北大），中西将尚，石名坂豪，増田泰（知床財団）．　知床半島におけるヒグマの栄養状態を左右する夏期の食物と軋轢発生への影響の検討．　「野生生物と社会」学会第 23 回大会　帯広畜産大学（帯広市）2017 年 11 月

○阿部森也（東京農工大），石川幸男（弘前大），宮木雅美（酪農大），渡辺修（さっぽろ自然調査館），石名坂豪，葛西真輔，増田泰（知床財団），梶光一（東京農工大）．エゾシカの生息密度の低下に伴う選好性の異なる群落間の下層植生の変化．日本生態学会第 65 回全国大会　札幌市　2018 年 3 月

学術誌

○Michito Shimozuru, Masami Yamanaka, Masanao Nakanishi, Jun Moriwaki, Fumihiko Mori, Masakatsu Tsujino, Yuri Shirane, Tsuyoshi Ishinazaka, Shinsuke Kasai, Takane Nose, Yasushi Masuda, Toshio Tsubota (2017)
Reproductive parameters and cub survival of brown bears in the Rusha area of the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan.
PloS one 12(4): e0176251. https://doi.org/10.1371/journal.pone.0176251

○ Noriko Azuma, Nadezhda I. Zaslavskaya, Tomoyasu Yamazaki, Takahiro

Nobetsu, Susumu Chiba (2017) Phylogeography of *Littorina sitkana* in the northwestern Pacific Ocean: evidence of eastward trans-Pacific colonization after the Last Glacial Maximum. Genetica 145(2): 139–149.

○Mayuko Otsuki, Tomonari Akamatsu, Takahiro Nobetsu, Daisuke Mizuguchi, Yoko Mitani (2018) Diel changes in ribbon seal *Histriophoca fasciata* vocalizations during sea ice presence in the Nemuro Strait, Sea of Okhotsk. Polar Biology 41(3): 451–456.
○松崎浩二，平治隆，森俊彰，野別貴博，木戸芳（2017）日本初記録のハゴロモコンニャクウオ（新称）*Careproctus zachirus*（クサウオ科）魚類学雑誌 64(2): 179–184.

紀要・報告書・商業誌

○船坂徳子，石名坂豪（2017） 海棲哺乳類の保全・管理のための調査・解析手法【7】～繁殖～. 海洋と生物 39(2): 163–174.

○増田泰（2017） 遺産登録からこれまでの歩みと今後の課題（世界自然遺産の今）. 國立公園 754: 11–13.

書籍

○石名坂豪（2017） 知床世界自然遺産地域のエゾシカ管理.（梶光一・飯島勇人 編：日本のシカ－増えすぎた個体群の科学と管理）pp.141–162. 東京大学出版会，東京.

知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計 5 回開催しました。知床財団職員や関係機関等を含め、のべ 116 名の参加がありました。

９． 知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集業務

「知床半島ヒグマ管理計画」の対象地域である斜里、羅臼および標津の３町において、特に町外在住ハンターによる狩猟期のヒグマ捕獲に関する情報および DNA サンプルの収集を目的として、協力を呼びかけるチラシを北海道の各振興局を通じて狩猟者地図と一緒に配布しました。また報奨品としてオリジナルバッジを作製し、実際にご協力いただいたハンター（狩猟者）に配布しました。

Ⅱ． 斜里町及び羅臼町におけるヒグマ・自然環境管理対策事業

１． ヒグマ対策業務

斜里町

今年度のヒグマ目撃件数は 1,388 件、対策活動が 947 件で前年度を上回り、近年で

は 3 番目に目撃件数が多い年でした。10 月 9 日には朱円東地区において、ヒグマによる人身事故（負傷事故）が町内では 31 年ぶりに発生してしまいました。その他、人なれしたヒグマが民家の倉庫を破壊して翌日に国立公園内で駆除された事例や、ふ化場の蓄養池のサケに餌付いてしまった事例などが発生しました。岩尾別川河口を見下ろす道道の急カーブ連続区間では、河口に出現するヒグマ目当ての観光客やカメラマンなどによる渋滞が頻繁に発生し、対応に苦慮しました。幌別川の河口では釣り人による自主的な釣り場管理が前年度に引き続き行われ、釣った魚の残滓管理のためのヒグマ対策ゴミ箱の設置やその管理などで知床財団も協力しました。斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は 26 頭でした。うち過半数（14 頭）の捕獲原因が農作物への加害でした。

羅臼町

今年度のヒグマ目撃件数は 220 件、対策活動は 174 件で、いずれも 6 月に最多となりました。6 月の目撃件数、対策活動は過去最多となりました。有害捕獲は 9 頭となりました。番屋施設が壊される被害や市街地へ侵入したことが原因でした。なお、今年度から、知床岬先端部における観光船などの船上からの目撃は、人との軋轢を伴わない目撃として、別途集計することになりました。今年度の船上からのヒグマの目撃は 249 件ありました。

２．　自然環境管理対策業務

斜里町

ゴミの不法投棄は 44 件あり、多くは食品の包装や容器などでした。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口などに例年どおり設置しました。なお前年度に引き続き、今年度もフンベ川河口の駐車帯に幌別川と同様の閉鎖期間が設けられました。

野生鳥獣死体の処理件数は 44 件、傷病鳥獣への対応は 17 件でした。エゾシカのライトカウント調査は、春期と秋期に各 5 回行いました。また、ウトロ市街地柵内におけるエゾシカの捕獲を麻酔銃と箱わなによって試み、計 4 頭を捕獲しました。

羅臼町

町内各地区で実施した計 49 回のパトロールでは、生ゴミ等の不法投棄への対応が 8 件ありましたが、野生動物への餌やり行為など不適切な利用への指導はありませんでした。

有害鳥獣捕獲の対象であるエゾシカ等を含む傷病野生鳥獣の対応は 34 件ありました。このうち交通事故で負傷したシカや敷地内への侵入防止のために設置された漁網に絡まって動けなくなったシカへの対応は 13 件でした。希少鳥類への対応はオジロワシ 4 件、オオワシ 3 件及びマガン 1 件の計 8 件ありました。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業も継続的に行っており、5 月に交通事故にあったと思われるアライ

グマに関する情報が寄せられたほか、7 月には、アメリカミンクの死体を回収しました。セイヨウオオマルハナバチについては、7 月にワーカー2 頭を捕獲しました。エゾシカのライトカウント調査は、春期と秋期に各 5 回行いましたが、春期については、昨年度に発生した土砂崩れの影響で調査区間を半分に短縮しての実施となりました。

Ⅲ. 野生生物管理事業

１. 知床国立公園・国指定知床鳥獣保護区における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、ヒグマの出没状況の把握やヒグマ保護管理対策活動等を実施しました。特に知床五湖やフレペの滝などの利用エリアにおいて、ヒグマの出没状況に応じた情報周知等を行いました。2013 年秋にカメラマンと人慣れヒグマの問題が顕在化した岩尾別温泉道路においては、監視小屋周辺にカメラマンが守るべきルールやマナーを記した看板を設置し、適宜巡回する等のカメラマン対策を、引き続き実施しました（4 年目）。また公園利用者の不適切な行為（キツネへの餌やりなど）に対する各種指導や、傷病鳥獣の保護収容を行いました。

２. エゾシカ生息密度操作関係業務

今年度も冬期間の一大事業として遺産地域内外のエゾシカ捕獲に取り組みました。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを 10 基、箱わなを 20 基、くくりわなを約 18 基稼働させ、流し猟式シャープシューティング（道路を閉鎖しての銃捕獲）を 1 ヶ所、誘引狙撃を 2 ヶ所、巻狩りを斜里町内の国有林 2 ヶ所で行ったほか、厳冬期にはヘリコプターで知床岬へ行き、仕切柵を利用した巻狩りも実施して捕獲しました。3 月末までに囲いわなで 63 頭（岩尾別大型仕切柵：7 頭（春 1 頭、冬 6 頭)、幌別川河口：6 頭、ウトロ東：11 頭、ウトロキャンプ場：5 頭、弁財崎：9 頭、オシンコシン①：1 頭、オシンコシン②：7 頭、マコイ沢：0 頭、春苅古丹：9 頭、相泊：8 頭)、箱わなで 91 頭（岩尾別：23 頭、幌別：30 頭、金山川：5 頭、春苅古丹：7 頭、ルサ-相泊：26 頭)、くくりわなで 44 頭（ルサ-相泊)、シャープシューティングで 30 頭（春 幌別-岩尾別：8 頭、冬 岩尾別川河口：22 頭)、誘引狙撃で 7 頭(春 1 頭、冬 6 頭)、巻狩りで 7 頭（遠音別川・金山川)、船舶捕獲で 28 頭（春 相泊以北)、さらに知床岬で 7 頭(春 3 頭、冬 4 頭)の、計 277 頭を捕獲しました。なお、羅臼町側の国立公園内での流し猟式シャープシューティングは、斜面の防災復旧工事の影響で、本年度も実施できませんでした。

Ⅳ.　遺産地域調査事業

１.　エゾシカの採食による植生への影響調査業務

エゾシカの捕獲事業を知床岬地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区で実施中ですが、これら事業の最終的な目的は各地の植生の回復です。その成果を測るため、エゾシカの密度低下後の植生の変化を調べたり、それを長期的に見守るための指標の開発が行われたりしています。今年度知床財団では、知床岬地区および遠音別岳周辺の調査をサポートしました。また、ルシャ地区において 2014 年および 2016 年に生体捕獲して GPS 首輪を装着した、計 14 頭のメスジカについて行動範囲等を調査しました。出産期の 6 月に羅臼側へ一時的に移動する個体が 2 頭確認されましたが、基本的には全個体が 1 年中、ルシャ地区の中のごく狭い範囲でのみ行動していました。

２.　エゾシカ航空カウント調査業務

知床半島の世界遺産地域内限定でエゾシカの航空カウント調査（ヘリカウント）を実施しました。調査区 10 区画で 92 群 659 頭のエゾシカを発見しました。エゾシカの発見頭数は、個体数調整（捕獲）を実施しているエリアでは概ね減少傾向でした。

３.　サケ科魚類の遡上状況調査業務

知床の生態系の陸と海を繋ぐ重要種として位置づけられているカラフトマスの遡上数と産卵床数についてモニタリングに係る調査を実施しました。対象河川は斜里町側のルシャ川とテッパンベツ川、羅臼町側のルサ川です。遺産登録後、2 年に一度の調査が行われてきましたが、いずれの河川でも遡上数と産卵床数は少ないという結果となりました。調査結果は、第 2 回河川工作物アドバイザー会議で報告しました。

Ⅴ.　科学委員会等運営事業

知床世界自然遺産地域を適切に管理するために、科学的な見地からの行政への助言が科学委員会会議やその付属会議によって行われています。知床財団は科学委員会本体会議（8/4 斜里町、2/21 札幌市）とエゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議（6/19-20 斜里町、11/27-28 釧路市）の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地元向けニュースレター作成などを担いました。また、知床世界自然遺産地域を含む日露隣接地域全体の自然環境や生態系の保全に資することを目的として開催されている日露隣接地域生態系保全協力プログラム推進委員会会議（8/3 斜里町、2/21 札幌市）及び成果報告会（11/3 札幌）についても、同様に運営事務局を担いました。

Ⅵ.　自動車規制管理運営事業

カムイワッカ地区で行われているマイカー規制の現地連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託し、知床自然センターを拠点に、運営の円滑化のためにバス会社や各地に配置された警備員や巡視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、ヒグマ出没時の連絡整理、負傷者への対応などを行いました。本年度よりマイカー規制期間が変更となり、9 月のシルバーウィークの規制がなくなり、自由利用期間となりました。そのため、現地での混雑や混乱を避けるための人員配置や駐車場の整備等を行いました。

知床自然センターにおいては、シャトルバスのチケット販売事業をバス事業者から受託し、インフォメーション業務と一体的なチケット販売体制を構築しました。

Ⅶ.　知床エコツーリズム総合推進事業（独自事業）

よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。適正利用・エコツーリズム検討会議（世界遺産科学委、利用適正・エコツーリズム WG と地域連絡会議、利用適正・エコツーリズム部会の合同会議）では、地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあり、知床財団もこうした取り組みに参画しています。

同会議で提案した「外国人旅行者向け情報発信の強化」について、検討部会を組織し事務局を担いました。また、現地着地後の外国人旅行者を対象に、斜里・羅臼の両町の観光コンテンツをつなぐことをコンセプトとした情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」の運用を行いました。

知床五湖では、地域住民に五湖を身近に楽しんでもらうため、「知床五湖ローカル割引キャンペーン」を今年度も継続して実施しました。キャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し、通年で地上遊歩道を無料で楽しめるサービスを提供し、今年度は、150 組 304 名の参加がありました。

Ⅷ.　知床五湖関連業務

2011 年より開始した知床五湖の利用調整地区制度は 7 年目を迎えました。知床財団は制度運営の要となる指定認定機関(環境大臣指定)として制度全体の運用を担っています。

本年度は、天候にも恵まれ、全期間を通じて 72,282 名と過去最高の認定数となりました。

ヒグマ活動期の実績も好調で、特に外国人利用者の増加が目立っています。期間中15,000 人を超える利用者がガイドツアーに参加しており、知床五湖がエコツアーの発信地となりつつあります。

公４：森林再生系事業

Ⅰ．　しれとこ 100 平方メートル運動地における森林再生業務（受託事業）

斜里町主催「しれとこ 100 平方メートル運動」は開始から 40 年、「100 平方メートル運動の森・トラスト」として原生の森の再生に向けた取り組みを始め 20 年が経過しました。この節目の年となった平成 29 年度は、40 周年記念事業を開催した他、これまで 20 年間の森づくりを総括するとともに次の 20 年間の目標や計画の策定を行いました。この息の長い取り組みの中で、知床財団は、100 平方メートル運動に関わる現地業務を担っています。

１．　森林再生推進業務

森林再生作業

春から秋にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくり、樹高 6 メートル以上の大型苗の移植、老朽化した防鹿柵の補修などの作業を行いました。それらの作業は全て多くのボランティアの皆様にお手伝いをいただきながら進めました。

また、今年度は、次の 20 年間に向け、新たな試みとして、重機を用いたササ地の掻き起こし作業を行いました。これは、掻き起こすことでササの勢力を弱め、これまでササ地だった場所に、新たな木々の天然更新を促すことを目的とした作業です。

近年、運動地の一部では、エゾシカ捕獲の効果によるシカの生息密度の低下が見受けられ始めてます。これまで防鹿柵の設置や樹皮保護ネット巻きなどシカ対策に多くの労力を費やしていましたが、これからはこれまでできなかったササ地や造林地での森づくりを進めていく計画です。

しれとこの森交流事業

森づくりの現場と運動参加者をつなぐ交流事業では、「第 38 回知床自然教室」（7 月 30 日～8 月 5 日、参加者 43 名）、「第 21 回しれとこ森の集い（植樹祭）」（9 月 17 日、参加者 118 名）、「第 21 回森づくりワークキャンプ」（10 月 30 日～11 月 4 日、参加者 13 名）の企画・運営を行いました。

9 月 16 日～17 日の 2 日間は、100 平方メートル運動 40 周年記念事業を開催し、前述の「森の集い（植樹祭）」の他、午来元町長や石川幸男専門委員会座長などの講演、新たに開設した「開拓小屋コース」の散策などを行いました。両日合わせて、100 名以上の運動参加者や斜里町民の皆さんにお集まりいただき、森づくりの現場を知っていただく機会となりました。

森林再生専門委員会議運営

森づくり作業の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われその方向性などが定められています。今年度は森づくり開始から 20 年目の節目となることから、これまでの 20 年間の総括と次期 20 年間の目標と計画について議論を重ねました。

知床財団では、斜里町と検討を重ね、次の 20 年間は「森・川・人」をテーマに森づくりや生物相復元、そして運動地公開を進めていく方針を提案し、一部引き続き協議を続けていく項目もありましたが、大筋の合意を得ることができました。これらの議論を踏まえ、斜里町では、平成 29 年度末に 100 平方メートル運動の今後の指針を示す「第 2 次中期方針（2018～2037 年度）」を策定しました。

運動地広報企画

100 平方メートル運動の広報誌『しれとこの森通信 No.20』（A4 判カラー12 ページ）の企画・編集作業を行いました。また、斜里町民向けに運動の状況を伝えるチラシ『しれとこの森通信ミニ』（季刊）を作成し、町広報誌に折り込み配布も行っています。

運動ホームページでは、日々の作業状況を発信するとともにイベントやボランティア募集の媒体としても活用しています。

Ⅱ．　しれとこ 100 平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業（独自事業）

本業務は、斜里町主催「100 平方メートル運動の森・トラスト」の安定的な継続と発展を図るため、運動地を含めた運動の普及と推進に、運動の現地業務を担う知床財団が斜里町と連携を図りながら独自事業として取り組んでいるものです。

１．　普及推進業務

運動地公開コース「しれとこ森づくりの道」の新たなルートとして、「開拓小屋コース」を開設しました。知床自然センターを起点に旧開拓家屋や開拓小屋を巡る約 5km、所要時間約 2 時間の散策路です。途中には、開拓の歴史を伝える家屋や放牧地跡、また現在進めている森づくりの作業地があり、突き当りの展望地からは知床連山が望めるコースです。9 月のオープンから 11 月末までに 385 名の方に利用していただきました。その他、2014 年に開設した「シカ柵コース」や冬期のスノーシューコースの開設と運営も引き続き行いました。

知床自然センターでの運動普及に向けた取り組みとして、ウトロ学校や斜里小学校、朝日小学校、斜里高校などの教育機関の受け入れを行い、教室での授業だけではなく、実際に運動地を歩き 100 平方メートル運動の取り組みや開拓の歴史について紹介しま

した。

合宿形式の森づくりイベントでは、「知床森づくりの日」（5 月）とダイキン工業株式会社様の社員ボランティア（5 月・9 月）を開催し、それぞれ 10 名前後の皆様が、知床の森を訪れ、実際の森づくりに関わっていただきました。

収　益　事　業

収１：収益事業

Ⅰ．　販売・有償貸出業務

知床財団の活動を広く知ってもらうことを目的に、オリジナル商品の開発を行いました。今年度は知床かばんの新色を製作したほか、今治ガーゼハンカチの店舗限定色の製作、販売を行いました。また、株式会社フェニックス様とのコラボレーション商品、オリジナル T シャツは今年度、計 1,000 枚販売し、T シャツの売上にあわせて 370,000 円のご寄附をいただきました。2018 年度に販売する T シャツのデザインの新規製作も並行して行い、2018 年 4 月より販売開始予定です。

オンラインショップ「コムヌプリ」で知床財団個人会員に入会いただいた方は、今年度は、個人終身会員 1 口 100,000 円（前年度 1 口 100,000 円）、個人年会員新規登録 8 口 40,000 円（前年度 23 口 115,000 円）、個人年会員更新登録 43 口 215,000 円（前年度 58 口 290,000 円）ありました。コムヌプリでの新規・更新手続きは 2018 年度より減少傾向ですが、知床財団のホームページに新設したクレジットによる自動引落しの手続きへ利用媒体が移行したものと推測しています。

知床自然センター、羅臼ビジターセンターおよびルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの有料貸出を行いました。今年度は、ヒグマ撃退スプレー560 件（前年度 465 件）、フードコンテナ 39 件（前年度 19 件）を貸出しました。貸出の際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法について写真を用いて理解しやすいよう配慮した資料などを作成、利用し、10 分程度のレクチャーを行いました。

知床自然センターで長靴・双眼鏡の有料貸出を実施し、長靴 2,608 件（前年度 3,891 件）、双眼鏡 283 件（前年度 112 件）の利用がありました。また冬季におけるスノーシューの貸し出し実績は 1,006 件（前年度 1,161 件）となりました。今年度の冬より新たにポールの貸出を追加し、112 件の貸出がありました。

羅臼ビジターセンターにおける長靴のレンタル業務では、57 件（前年度 49 件）の利用がありました。

2017 年度の販売売り上げは 22,983,198 円（前年度 17,693,746 円）、レンタルによる売り上げは 2,706,200 円（前年度 3,084,500 円）となりました。

今年度は知床自然センターにクレジット対応機器を導入しました。2018 年 2 月からの稼働で、2 か月間（2～3 月）の店舗売上金額の 27.9%がクレジット利用によるものでした。

今年度より地元の法人会員様を対象に卸販売事業を開始しました。卸販売した商品は、主に会員様が経営する地元の宿泊施設で取扱いいただいております。

Ⅱ.　研修実習受入業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2017 年度は 3,015,265 円の収入がありました。

2017 年度　研修実習・講演・視察対応等受け入れ実績一覧表

区分	実施日	受入先	対象	内容
研修実習	6月1日	ウトロ	東京農業大学 生物産業学部 生物生産学科 植物資源保全学研究室	東農大寺澤研究室（3年生）実習
	6月19日	ウトロ	JICA独立行政法人国際協力機構（NPO法人エンヴィジョン環境保全事務所）	世界遺産地域およびその周辺でのヒグマの保護と利用の両立
	6月20日	ウトロ	札幌科学技術専門学校 自然環境学科	知床実習
	6月26日～30日	ウトロ	公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会	ヒグマ対策研修
	6月28日	ウトロ	前田一歩財団	ヒグマ対処法研修
	7月1日	ウトロ	国立大学法人北見工業大学	知床の自然環境や保護活動について
	7月15日、22日	ウトロ	東京農業大学生 物産業学部	体験実習「森の学校」
	8月30日	ウトロ	酪農学園大学	野生動物保全技術実習
	9月21日	ウトロ	網走中央小学校5年生	知床の自然保護の実態や課題について
	9月29日	ウトロ	北海道大学 獣医学部	野生動物実習
	10月2日	ウトロ	知床ネイチャーキャンパス（知床自然大学院大学設立財団）	知床で学ぼう　自然再生・自然復元
	10月26日～30日	ウトロ	亜細亜大学　原ゼミ知床実習	地域産業としてのエコツーリズムを考える他
	2月13日	ウトロ	JICA独立行政法人国際協力機構（公益財団法人はなます財団）	世界自然遺産のマネジメントならびにコントロールについて
講演	4月7日	羅臼	標津建設業協会	技術研修会
	6月17日	羅臼	北方四島在住ロシア人訪問団の「住民交流会」	環境問題及び世界自然遺産の取り組みについて
	6月23日	ウトロ	西武学園文理小学校4年生（株式会社JTB関東）	知床の自然について
	7月13日	ウトロ	北海道立斜里高等学校（3年生）	知床自然概論（運動・シカ）
	8月22日	ウトロ	神戸動植物環境専門学校	知床に暮らすヒグマとの共存、環境保全への取り組みについて
	9月10日	ウトロ	電機連合	自然保護と産業振興について
	10月11日	ウトロ	北海道立斜里高等学校（3年生）	知床自然概論（運動・シカ）
	10月27日	ウトロ	個人（株式会社コックス・アンド・キングス・ジャパン）	知床の自然環境、動物と自然の原生形態、保護活動について
	10月28日	ウトロ	日本クマネットワーク学生部会	クマに関する安全対策講習会
	11月29日	ウトロ	東京農業大学　生物産業学部　学術情報課程博物館情報学研究室	学芸員養成課程の授業
	12月3日	ウトロ	北海道立青少年体験活動支援施設　ネイパル厚岸	森づくりワークキャンプの取り組みについて
	2月11日	ウトロ	徳之島町役場	世界自然遺産シンポジウム
	3月24日	ウトロ	NPO法人えんがぁるジオ倶楽部	自然を生かした観光ツーリズムについて

区分	実施日	受入先	対象	内容
視察	5月22日	ウトロ	山梨県富士河口湖町議会	世界遺産保全の取り組みについて
	6月9日	ウトロ	沖縄県文化観光スポーツ部（株式会社オリエンタルコンサルタンツ 沖縄支店）	知床財団の活動について
	6月18日	羅臼	JICA独立行政法人国際協力機構（NPO法人エンヴィジョン環境保全事務所）	羅臼VC見学・映像鑑賞ほか
	7月7日	ウトロ	外務省四島交流事業視察（株式会社ノマド）	野生生物専門家視察
	8月1日	ウトロ	秋田県議会	知床財団の活動について
	8月29日	羅臼	白河市議会市民クラブ	世界遺産知床の保全と課題について
	11月29日	ウトロ	NPO法人時ノ寿の森クラブ	ナショナルトラスト制度先進地視察
	1月18日	ウトロ	遠軽町商工観光課（株式会社日本旅行北海道）	冬の観光振興について
	2月22日	ウトロ	NPO法人アースワーム	シュープシューティング視察
特別講師	6月22日	ウトロ	てしかがえこまち推進協議会	ヒグマ講習会
	7月20日	ウトロ	学生市民公開講座（北海道科学大学）	世界遺産知床・公開講座
	7月29日	ウトロ	清里町教育委員会	フレペ＆森づくりの道散策　オホーツクの魅力について
	8月23日	ウトロ	北海道大学獣医学部	獣医学概論
	9月13日	ウトロ	標津町中学生1・2年生	ヒグマ授業（子供樹木博士認定会）
	11月24日	ウトロ	北海道立標津高等学校	自然環境類型の課題研究への協力
ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ	1月22日	ウトロ	網走市 農林水産部 農林課 耕地林務係	囲いわな修理
	2月17日	ウトロ	株式会社ライヴ環境計画	国立公園における訪日外国人プロモーション手法検討

他１：その他の事業

Ⅰ．　ＪＢＮ業務

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBN ホームページの運営管理を行いました。年 3 回発行の JBN 会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ 828 件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計 58 部を販売しました。ホームページについては、日常的な掲載内容の更新を JBN 事務局と連携して実施しました。

日本クマネットワークは、個人や地域ごとの単独の活動だけでは難しい全国レベルの諸問題や国際問題に関し、必要に応じて社会に対して働きかけを行い、人とクマのより良い関係を構築する活動を行っている NGO 組織です。近年は、クマによる人身事故対策や絶滅の恐れのある四国のツキノワグマ個体群の保全活動に精力的に取り組んでいます。会員は専門家やクマに関心を持つ一般市民、およそ 360 名で構成されています。

法　人　会　計

法１：財団法人管理運営事業

Ⅰ．　財団法人管理運営業務

理事会は、第 1 回理事会（5 月）を開催し、「平成 28 年度事業報告及び決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、賛助会員入会承認」について審議しました。第 2 回理事会（10 月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第 3 回理事会（12 月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第 4 回理事会（3 月）は、「平成 30 年度事業計画（案）、収支予算（案）、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、定款の一部改正、職員給与規程の一部改正、就業規則の一部改正、無期雇用職員就業規程の制定、賛助会員入会承認」について審議しました。第 5 回理事会（3 月、決議の省略）は、「事務局長の選任」について審議しました。

定時評議員会（6 月）は、「平成 28 年度決算報告及び会計監査報告」について審議しました。

また、代表理事と事務局の運営会議を 9 月と 3 月に開催しました。